

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 58

学校名・団体名	豊川市立一宮南部小学校
HPアドレス	http://www.city.toyokawa.lg.jp/shouchuuichiran/te-ichinan/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	学校・地域が一体となった温かな学校文化の創造
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>保護者や地域の協力を得て、ふるさとを見つめ、ふるさとに学ぶ学習を展開することで、地域と共にある学校を具現してきた。授業や教員研修における地域からの講師の招聘、ミニホワイトボードを活用し小グループ活動を中心にした全員参加の授業づくりについての継続研究等により、温かい学校文化を創る取り組みを継続してきた。授業研究では Round Study の手法を取り入れ、主体的に学ぶ教師を目指している。また、地域の核としての学校が果たす役割について、地域防災の視点から考察することができた。</p>	

■ 研究の構想

【手立て(教材・活動)】
 学年を超えた
 つながりの形成
 <保護者・地域>

地域教材の開発
 <ふるさと再発見>
 ○ 地域の特色を生かした全校活動
 ○ 地域素材を生かした総合的な学習の時間
 ○ 生活科における地域連携
 ○ 地域とつながる生活単元学習

<学校内>

縦割り活動

輝きボード

子どもにとっても
 あたたかな職員室

成長の実感
 成長した姿の発信

全校合唱

ポートフォリオづくり
 (Book Making)

日常の授業・活動、学校生活

【手立て(授業づくり)】

授業デザイン

教科としての
 目標の明確化

意識をつなぐ
 単元構想図

入り口と出口を
 意識した授業

振り返りを生かした
 授業展開

授業に取り入れる活動

小グループ学習
 の活性化

知識習得型
 意見交流型
 探究創造型
 役割取得型

教師の学び

Round・Study
 (参加型研修)による
 授業分析・現職研修

地域探検
 (現職研修)

先達に学ぶ

【伝える力】

育てたい3つの
 「伝える力」

伝えたい思い

伝える技能

伝わった実感

【Do a subject
 (教科する授業)】

目標に迫る授業

子どもの意識に沿った
 学習展開

個の学び

みんな
 学び

グループ
 学び

個の育ち

ストーリー性
 のある
 学習デザイン

起

承

転

結

目標

心豊かにふれあい、ともに高め合う子ども

『「ひとり」「ひとり」の確立』をめざした子ども理解

子どもの学びを支える一宮南部小学校の「学校文化」

子ども一人一人に「居場所」がある学校

学び合う職員集団

■ 研究の組織

誰もがそれぞれの立場で研究の中核を担っていくことできる研究推進組織

研究全体会

「教科する」部会

「ふるさと再発見」部会

京都大学大学院教育学研究科 石井英真先生

研究推進委員会

年度当初に構想および、組織を上記のように位置づけ、研究主題にせまる手立てを明確にするとともに、全職員が同じ意識で取り組むことができるよう共通理解をした。

■ 活動の実際

(1) 6月28日 6年生国語「読み手を説得できる文章を書こう」
 授業研究会実施

まなボードを使った小グループでの話し合い活動を取り入れ、子どもたちの考えを深める授業公開。授業後の RoundStudy 形式での研修会では京都大学大学院准教授石井英真先生を講師にお招きして指導・ご助言をいただいた。



(2) 7月28日 地域にある豊川の霞提について教師の学習会実施

地域の外部講師をお招きし、防災の視点から考える霞提についてお話を伺った後、現地視察。

(3) 11月2日 2年生生活「さがそう校区のヒーローさん」
(わたしの町はっけん)授業研究会実施

まなボードを使った小グループでの話し合い活動を取り入れ、子どもたちの考えを深める授業公開。

御津南部小学校教頭 原田三朗先生を講師にお招きして指導・ご助言をいただいた。



(4) 12月9日 地域行事 大いちょう祭りに参画

全校で育てたサツマイモを焼き芋にして販売したり、マーチング部による演奏を披露したりした。焼き芋作りについては6年生が事前に準備し、当日の販売もボランティアで参加し祭りに協賛した。地域の方々とながらることを目的とした参加であったが、地域の人とながらることは防災を考えた時にとっても大切なことだととらえている。



(5) 1月25日 先進校 京都市立高倉小学校授業研究会参加

英語活動の授業参観

(6) 2月1・2日 先進校香川大学付属高松小学校の研究会参加

ふるさとも見つめ、ふるさを再発見することを意図した授業を参観。地域を素材にすることで子どもたちの自主的な学びが広がったこと、また地域から課題を見つけそれを解決するために子どもたちの自主的な学びが深まったことがわかる授業。

(7) 2月27日 京都大学大学院准教授 石井先生 講演会

全校の授業を参観していただいた後、「新学習指導要領の基本的な考え方と授業づくり」という演題でご講演をいただいた。



■ 成果及び子どもたちへの効果

- 学習教材に地域教材を取り入れたことにより、子どもたちが地域のよさをたくさん見つけることができた。また地域の人たちと関わりを深めたことで子どもたちは学習終了後も、地域の方々とながらるりができている。ふるさとのよさを再発見し、自分たちの住むふるさが大好きという思いの持てる学習を展開することができた。
- 地域の行事に参加し、一緒に活動したことで、地域の方々に子どもたちを知ってもらえる、つながる活動になった。これは本研究が目的としていた防災の視点からとらえると、とても有効な取り組みであった。また保護者や地域の方々の温かい支援に支えられた活動であった。
- 授業の中にホワイトボード(まなボードと呼んでいる)を活用した小グループでの話し合い活動を効果的に位置づけたことで子どもたちは自分の思いを自信をもって語る事ができた。また思いを交流する中で、考えを深めることができた。小グループでの話し合い活動により全員が授業に参加することができ、子どもたちの学びを保障する手立てとして有効であった。